



選血散

壹劑拾貼也
順榮湯二貼添

後醍醐天皇御宇元亨年中自元朝明
征俊禪師東渡入禁廷次奏進於靈藥
十一方是其一方也從乃祖傳專行之
畧多知者猶恐救病之不普因今重廣
之欲濟衆其功驗詳於左條件矣

- 一 下痢瘡毒よも移疾ひせんかさ一切の
小瘡り敷くめけり
 - 一 男女と氣頭痛之がうん腹中がまると
りしは之めり
 - 一 血氣不順をせむくも是かきん
いぎんす
 - 一 婦人血の通ちらから血塊月水の
不順をせり
 - 一 第一等酒の人のそ万疔あともつらむ婦人瘡
毒の氣保と瘡瘡うづらふまを奉て瘡切の
瘡血をせりしは血氣通れ痛を止まのめり
- 此のらんやう中紙と洋紙
- 存心くす用前の日順榮湯二貼せりて用白次の日
敷ふ十貼たふを飯かきんたふ五貼のむく守飯
後うりすこよの貼のむく板のむくは瘡切て後
其身の根をにきり夜向湯あつくのむくもこ
濕毒を瘡血小便より小あふくもこり小便あふ
らふふすしててんくもこり目くもこりふもこり悪血たり
瘡血のせり人い小なんきりてふもこり瘡血の
あふりてふもこりて半眼あふりて瘡血の
うづらひ
- 右通悪血をふりてらむもこりて瘡血のせり
瘡血のせりてらむもこりて瘡血のせり
瘡血のせりてらむもこりて瘡血のせり

料物三百銅

勅許調合所

京四條通高倉西三町

鈴木越後掾

